

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：宮崎県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
重点課題2「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<b>日南海岸サンゴ群集保全協議会の設立</b> 国の交付金を活用して「日南海岸サンゴ群集保全協議会」を設立し、日南海岸サンゴ群集について保全方策を検討している。（日南海岸サンゴ群集保全協議会）	大学と連携し、サンゴの生息域の変化やサンゴ食害生物の生息数、多種多様な魚類・藻類等々の海洋生物の調査を行い、記録や数値化し、サンゴ食害生物駆除後の推移やサンゴ生物環境保全の重要性を裏付ける作業を進めている。
2	<b>エコツーリズム推進協議会の取組</b> 国の交付金を活用して「串間エコツーリズム推進協議会」を設立し、串間市内の豊富な自然観光資源を保全しながら活用するなど、持続可能な形で後世に伝えていく取組を行っている。（串間市）	串間エコツーリズム推進全体構想において、「都井岬沖の九州最大級のテーブルサンゴ群集」や「築島のサンゴ群集」がエコツーリズムの対象となる自然観光資源に定められており、同構想の中で定められたエコツーリズムのルールに則り、自然環境の保護に留意しながら、観光資源として活用している。
重点課題3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<b>つながりの構築に向けた取組①</b> 環境省の生物多様性保全推進交付金による支援をいただき、県や関係市、ダイビング協会等で組織した「日南海岸サンゴ群集保全協議会」が、県民へのサンゴ保全と生物多様性を広く周知するためのイベント等を実施している。	日南海岸のサンゴの存在やサンゴ生態系及び生物多様性の重要性を広く周知するためには、地元の住民への環境教育学習の実施が必要と考えている。 このため、地元の小中学生を対象としたスノーケリングによるサンゴ観察会を実施した。この観察会ではスノーケリング体験以外にも、串間市の築島地区開催時は昼食にサンゴの海の恵みである地元獲れの魚介を使用した海鮮汁を提供し、日南市の大島地区開催時はオリジナルエコバック配付を通してサンゴ・海洋ゴミ問題の講話を行った。また、日南海岸のサンゴ群集の魅力を広く周知するために県内最大のショッピングモールでサンゴ写真展を開催した。
2	<b>つながりの構築に向けた取組②</b> 上記1の「日南海岸サンゴ群集保全協議会」は、行政機関や大学関係者のほか、観光及び漁業の関係者が構成員であるため、日南海岸地域のサンゴ保全について協議し意思疎通を図ることができる場となっている。	日南海岸の美しいサンゴや豊かな生態系を維持していくためには、地元の人々がサンゴ群集を漁業や観光の重要な資源であることを認識した上で、それらを活かした観光事業や環境教育などの各種取組を推進していく必要があると考えている。生物多様性保全推進事業が今年度で終了であるが、来年度から水産多面的機能発揮対策交付金を活用して、今後も継続して当協議会が運営できる環境づくりを行う。
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	<b>日南海岸のサンゴ群集におけるサンゴ食害生物駆除従事者の育成（日南海岸サンゴ群集保全協議会）</b>	宮崎大学の協力を得て、大学生及び地元の一般ダイバーを駆除従事者へと育てる教育プログラムを計画している。これにより、サンゴ群集の保全に必要なサンゴ食害生物の駆除従事者を確保することができると期待している。今年度は新型コロナウイルス拡大により大学生の参加が困難であったが、参加を希望する学生側の声は多く聞かれたため、今後も継続していきたい。